



認証番号0002140

環境活動レポート

エコアクション21



鈴与エコプロダクツ株式会社

2018年度版

(2017年9月1日～2018年8月31日)

2018年 11月 26日作成

目次

- I 事業の概要
- II 対象範囲
- III 環境方針
- IV 環境目標
- V 2017年度環境活動計画
- VI 2017年度環境目標の実績
- VII 2017年度活動の評価と2018年度環境活動計画
- VIII 環境関連法規への違反・訴訟の有無
- IX 環境上の緊急事態への準備及び対応
- X 代表者による評価と見直し

I 事業の概要

(2018年8月31日現在)

1. 事業所名 鈴与エコプロダクツ株式会社

2. 住 所

袋井事業所

〒437-0005 静岡県袋井市見取1924-55

TEL : 0538-49-4040 FAX : 0538-49-4041

菊川事業所

〒437-1522 静岡県菊川市嶺田1813-5

TEL : 0537-73-8555 FAX:0537-73-8558

3. 代表者名 代表取締役社長 鈴木 忠彦

4. 設立年月日 平成16年7月9日

5. 資本金 90,000千円

6. 環境管理の責任者及び担当者氏名・連絡先

【袋井事業所】 環境管理責任者 袋井事業所長 大竹 涼司
連絡先 TEL 0538-49-4040 FAX 0538-49-4041

【菊川事業所】 環境管理責任者 菊川事業所部長 齋藤 博俊
連絡先 TEL 0537-73-8555 FAX 0537-73-8558

【事務局】 本部 野村 武男
連絡先 TEL 0538-49-5370 FAX 0538-48-5811

※ 環境活動推進体制組織図は別紙①の通り

7. 事業の内容

容器洗浄リユース事業 通い箱洗浄事業 再生プラスチック販売事業
産業廃棄物収集運搬及び中間処理業 ペットボトルリサイクル
一般廃棄物処理業(廃プラスチック破碎・洗浄)

8. 事業の規模

活動規模	単位	2016年度	2017年度	2018年度
売上高	百万円	1,023	1,066	1,104
従業員	人	56	55	64
床面積	m ²	5,091	5,091	5,091

※事業年度は9月～8月《2018年度は2017年9月～2018年8月》

※会社組織図は別紙②の通り

9. 許可の内容

【袋井事業所】

- ・ 産業廃棄物処分業許可 許可番号:第02222172517号
中間処分
破砕処分ー廃プラスチック類
活性汚泥処分ー廃アルカリ(pH7.0から8.6に限る)
許可の年月日 平成 30 年 9 月 1 日
許可の有効年月日 平成 35 年 8 月 31 日
- ・ 産業廃棄物収集運搬業許可 許可番号:第02201172517号
収集運搬(積替え及び保管行為を除く)
廃プラスチック類(石綿含有廃棄物を除く)、廃アルカリ
許可の年月日 平成 30 年 9 月 1 日
許可の有効年月日 平成 35 年 8 月 31 日

【菊川事業所】

- ・ 一般廃棄物処理施設設置 許可番号:環廃第44-9号
許可の年月日 平成 16 年 4 月 23 日
- ・ 一般廃棄物処理業 許可番号:菊生環第144号
許可の年月日 平成 29 年 9 月 1 日
許可の有効年月日 平成 31 年 8 月 31 日
- ・ GRS認証 認証番号:CU817152
リサイクル原料の有効な追跡のための国際認証プログラム
コントロールユニオンによる年1回の審査

10. 処理施設等の状況

【袋井事業所】

- | | |
|----------|----------------------------|
| ① 種類 | 破碎施設 |
| 廃棄物の種類 | 廃プラスチック類 |
| 処理能力 | 0.4トﾝ／時間 |
| 処理方式 | 一軸式スクリーン付破碎機により
ランダムに破碎 |
| 処理工程 | 別紙③の通り |
| ② 種類 | 活性汚泥処理施設 |
| 廃棄物の種類 | 廃アルカリ |
| 処理能力 | 0.70625トﾝ／時間 |
| 処理工程 | 別紙④の通り |
| ③ 収集運搬車両 | 10tウイング車 1台 |

【菊川事業所】

- | | |
|--------|-----------------|
| 種類 | 破碎施設 |
| 廃棄物の種類 | 廃プラスチック(PETボトル) |
| 処理能力 | 1.0トﾝ／時間 |
| 処理方式 | 破碎 |
| 処理工程 | 別紙⑤の通り |

11. 産廃処理実績

2018年度処理実績 …… 廃アルカリ36.745t

2018年度収運実績 …… 廃アルカリ36.745t

※ 事業年度(9～8月)1年間における実績

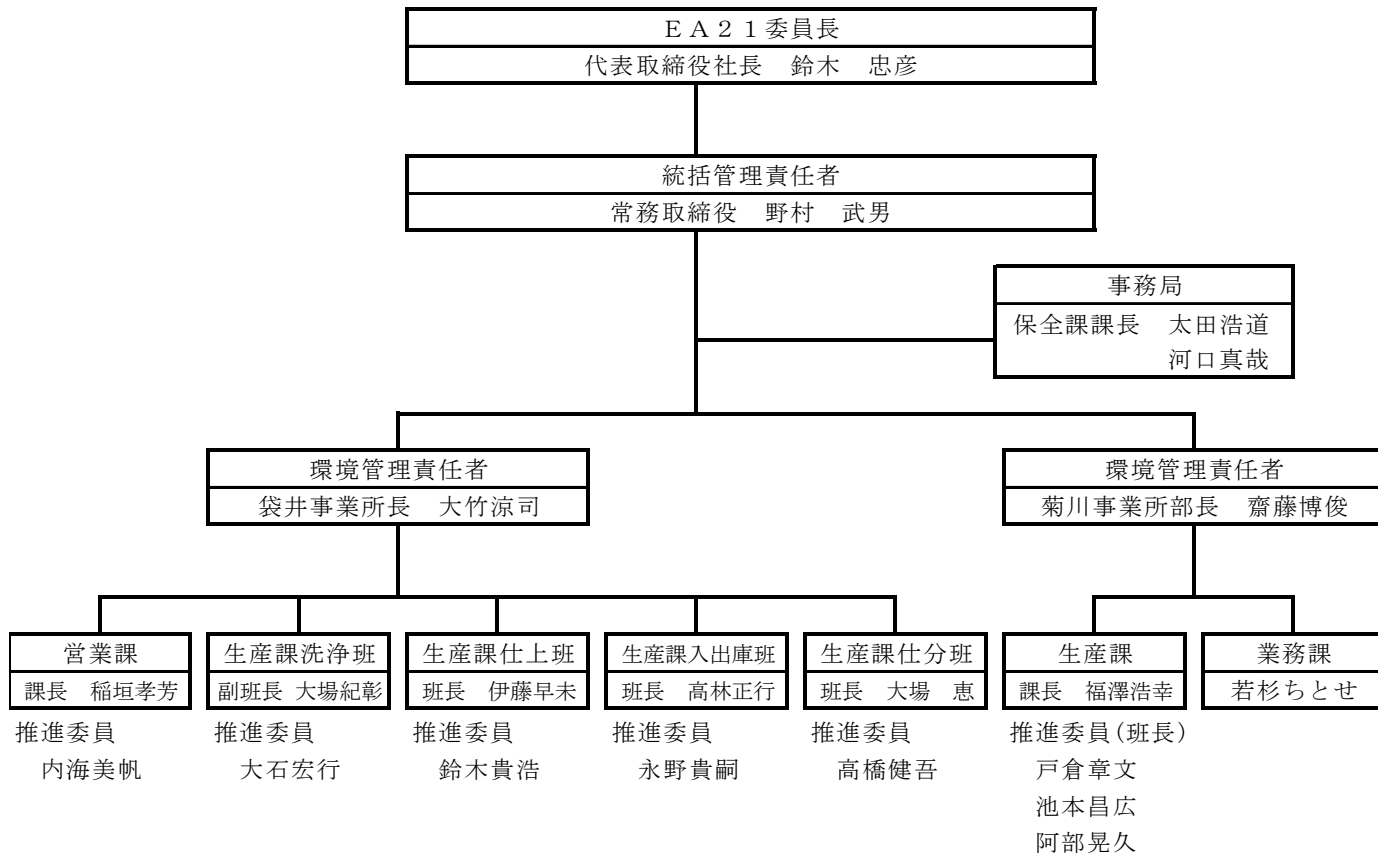
12. 再生資源原料処理実績

2018年度処理実績 …… 廃プラスチック(PETボトル)5,618t

※ 事業年度(9～8月)1年間における実績

環境活動推進体制組織図

2018年8月31日現在

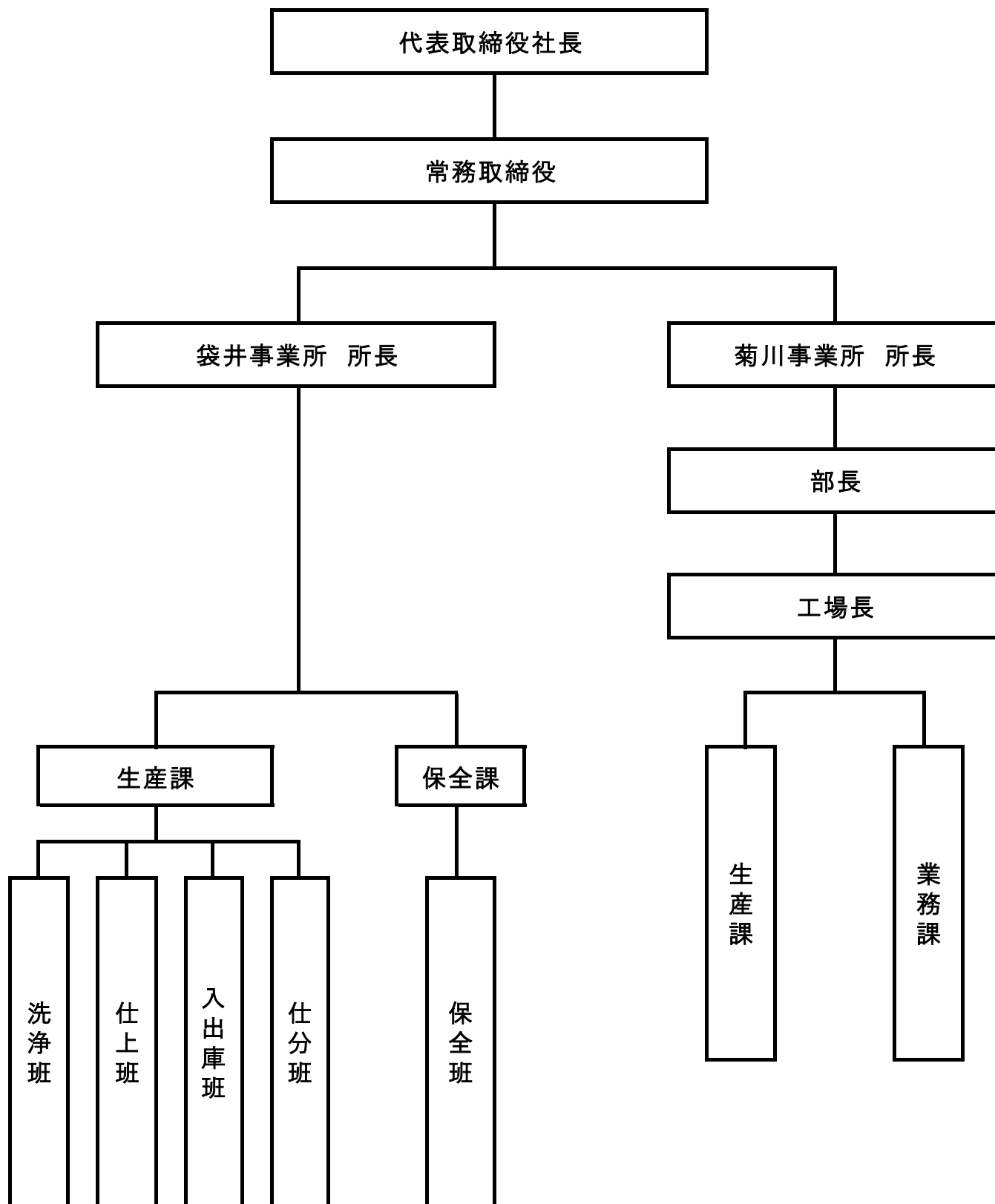


【 環境管理組織における役割 】

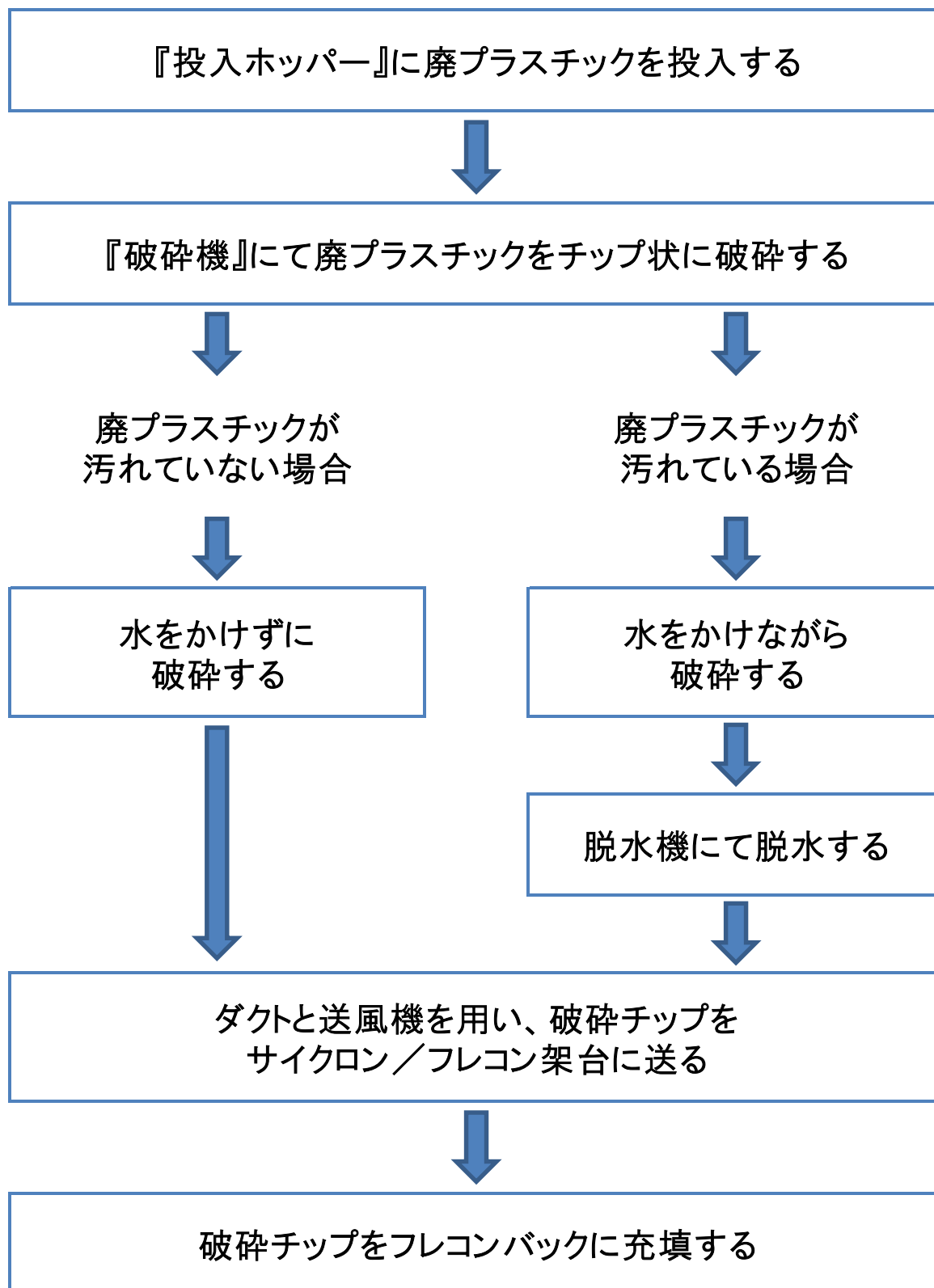
メンバー	役割	具体的内容
E A 2 1 委員長 統括管理責任者	[総責任を担う] 環境方針・基本理念の策定 環境管理責任者の任命 資源(人材・資金・技術)の準備 環境経営システムの見直し指示	環境方針・基本理念の策定・改定し社員に周知する。 環境管理責任者を任命する。 環境管理責任者から定期的に活動報告を受ける。 実施体制を構築し役割・責任・権限を明確にする。 月一回の定期パトロールを実施。 全体の評価と見直しを実施し各部門に指示を出す。
環境管理責任者	統括責任者の補佐、進捗管理、 P D C Aサイクルの推進。	全体の進捗状況把握及び統括責任者への報告。及び環境管理担当者からの報告に基づく新たな施策の立案・上申。
環境管理担当者	環境管理目標・活動方針策定 環境経営推進会議の開催。 改訂版法規制のチェック。	各事業場の進捗状況把握及び環境管理責任者への報告。 結果の分析、方針に基づく新たな施策の提案。
事務局	環境管理責任者、環境管理担当者 を補佐し、文書・記録を管理す る。	活動状況チェック、強化週間の企画・スケジュール立案。 各部門のデータ取り纏め。
課長(班長)	課・班毎の活動責任者	活動実施、進捗状況把握、環境管理担当者へ結果報告。
推進委員	課長(班長)の補佐、P D C Aサイ クルを推進する。	活動をより早く、より効果的に、全員で実施するために課長(班 長)をサポートする。

鈴与エコプロダクツ(株)組織図

2018年8月31日現在



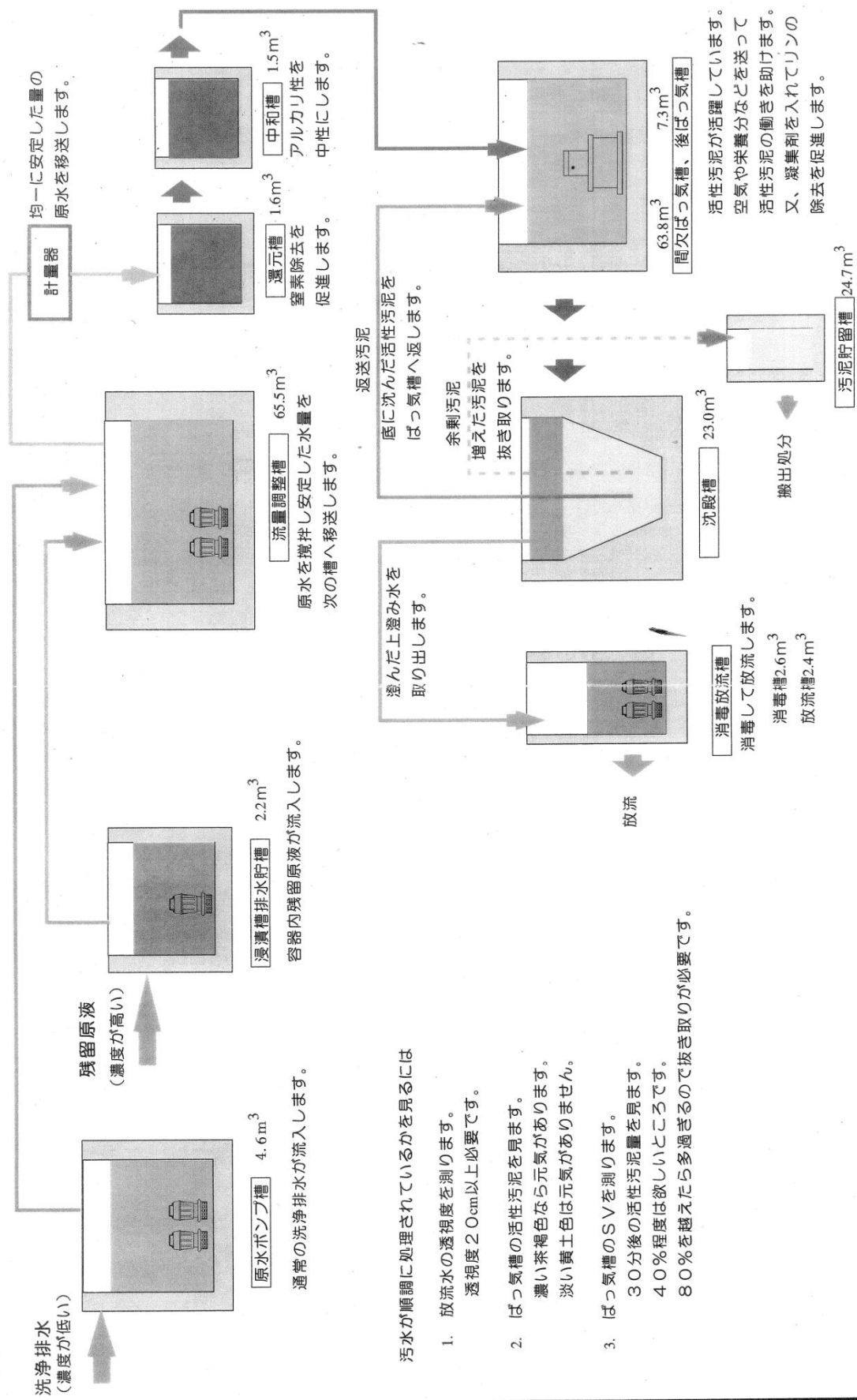
処理工程（袋井事業所）



別紙④ (袋井事業所)

排水処理フロー 簡略図

※槽名横の数字は槽容量です。

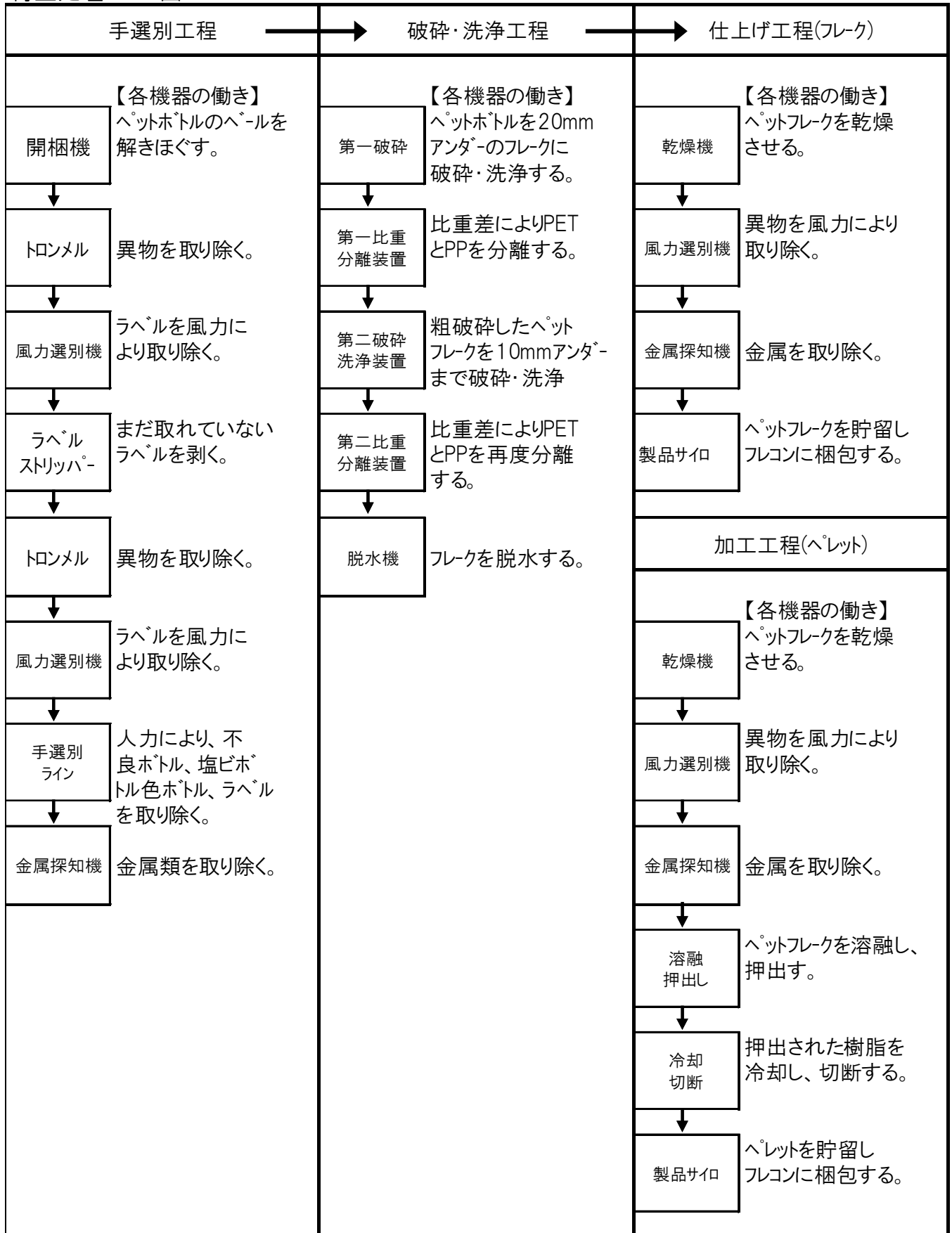


汚水が順調に処理されているかを見るには

1. 放流水の透視度を測ります。
透視度20cm以上必要です。
2. ばっ気槽の活性汚泥を見ます。
濃い茶褐色なら元気があります。
薄い黄土色は元気がありません。
3. ばっ気槽のSVを測ります。
30分後の活性汚泥量を見ます。
40%程度は欲しいところです。
80%を越えたら多過ぎるので抜き取りが必要です。

処理工程 (菊川事業所)

ペットボトル加工状況
再生処理フロー図



Ⅱ 対象範囲

1. 対象組織： 鈴与エコプロダクツ株式会社(全社で取得)
2. 対象活動： 容器洗浄リユース事業、通い箱洗浄事業、再生プラスチック販売事業、ペットボトルリサイクル産業廃棄物収集運搬及び中間処理業

袋井事業所



菊川事業所



Ⅲ 環境方針

＜基本理念＞

鈴与エコプロダクツ株式会社は、「もったいない」と「きれいに」を『かたち』にすることを使命とし、プラスチックのリユース・リサイクル事業を通じ、限りある資源の有効利用と二酸化炭素排出量削減に寄与し、地球環境の保全に社員が積極的に取組み「明日の地球のために働いている」ことに誇りと喜びを持てる企業を目指します。

＜環境方針＞

1. 環境関連法規ならびに締結した協定等を遵守し、社会の信頼に応える企業を目指します。
2. 事業の全領域に於いて環境負荷の低減と環境保全活動を以下の通り取組みます。
 - (1)省エネ(電気、化石燃料)推進により、プラスチック処理量当りの二酸化炭素排出量を削減します。
 - (2)分別の徹底によりプラスチック処理量当りの廃棄物排出量を削減します。
 - (3)作業効率アップと再利用水によるプラスチック処理量当りの水使用量を削減します。
 - (4)動植物に悪影響を及ぼさない為に化学物質規制に配慮して活動します。
3. プラスチック容器リユース及び高品質なりサイクル製品の製造販売を通じて循環型社会の形成に貢献します。
4. 環境コミュニケーションとして消費者団体、学生、近隣住民の見学を積極的に受け入れます。
5. 全従業員に環境方針及び必要事項を周知徹底し、全社一丸で取り組む体制を堅持します。

2013年 9月 1日 制定

2018年 9月 1日 改訂

鈴与エコプロダクツ株式会社

代表取締役社長 鈴木 忠彦

Ⅳ 環境目標(袋井事業所)

中期目標は以下の通りとする。

【年度は前年9月から年度末8月まで】

項目		単位	[基準年] 2015年度 実績	2017年度 目標	2018年度 目標	2019年度 目標	
CO ₂ 排出量の削減	CO ₂ 排出量削減	kg-CO ₂ /個	0.262 <100%>	0.256 <98.0%>	0.254 <97.0%>	0.254 <97.0%>	
	電力 使用量削減	kwh/個	0.214 <100%>	0.211 <98.6%>	0.210 <98.1%>	0.209 <98.0%>	
	灯油 使用量削減	CC/個	57.1 <100%>	50.9 <89.1%>	50.9 <89.1%>	50.9 <89.1%>	
省資源	排水量 使用量削減	L/個	12.2 <100%>	14.1 <115.6%>	14.0 <114.8%>	13.9 <114.6%>	
製品サービス活動の積極展開	容器リユース本数の増加	本	1,101,261 <100%>	1,152,424 <104.6%>	1,191,920 <108.2%>	1,233,412 <112.0%>	
廃棄量の削減	混合廃棄物の削減	m ³	19.5 <100%>	19.5 <100.0%>	40.0 <205.1%>	39.0 <200.0%>	
化学物質使用量の削減		環境目標の策定が難しいため環境目標の具体値は設定せず、環境活動計画を策定し、推進します。					
グリーン購入の推進(ECOマーク商品の優先購入)		環境目標の策定が難しいため環境目標の具体値は設定せず、環境活動計画を策定し、推進します。					
環境貢献	環境推進会議		回/年	2回/年	2回/年	2回/年	2回/年
	社員教育 (強化週間実施含む)		回/年	3回/年	3回/年	3回/年	3回/年
	6S運動	パトロール	隔月実施	隔月実施	隔月実施	隔月実施	毎月実施
		強化週間 (4月又は5月)	回/年	1回/年 実施	1回/年 実施	1回/年 実施	1回/年 実施

Ⅳ 環境目標(菊川事業所)

中期目標は以下の通りとする。

【年度は前年9月から年度末8月まで】


項目		単位	[基準年] 2015年度 実績	2017年度 目標	2018年度 目標	2019年度 目標	
CO2 排出量 の削減	CO2 排出量削減	kg-CO2/t	279.47 <100%>	273.88 <98%>	271.09 <97%>	268.29 <96%>	
	電力 使用量削減	kwh/t	553.66 <100%>	544.21 <98%>	537.05 <97%>	531.51 <97%>	
	ガソリン 使用量削減	L/t	0.92 <100%>	0.21 <23%>	0.20 <22%>	0.20 <22%>	
	LPG 使用量削減	kg/t	2.39 <100%>	2.69 <113%>	2.68 <112%>	2.68 <112%>	
省資源	上水 使用量削減	m3/t	9.76 <100%>	9.92 <101%>	9.76 <100%>	9.76 <100%>	
廃棄物の削減	ラベル・汚泥・掃き寄せ 排出量の削減	kg/t	54.3 <100%>	62.31 <115%>	62.31 <115%>	62.31 <115%>	
受託廃棄物の環境配慮	再商品化率の向上	%	84.6 <100%>	85.1 <101%>	85.2 <101%>	85.2 <101%>	
グリーン購入の推進(ECOマーク商品の優先購入)		環境目標の策定が難しいため環境目標の具体値は設定せず、 環境活動計画を策定し、推進します。					
環境 貢献	6S運動	パトロール		毎月実施	隔月	隔月	隔月
		強化週間 (5月)	回/年	-	1回/年	1回/年	1回/年
	社会貢献(工場見学)			通期受入	通期受入	通期受入	通期受入

V 2017年度環境活動計画(袋井事業所)

取組み目標			責任者	担当者	年間スケジュール(2017/9～2018/8)												
項目	活動項目	詳細			9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
CO2 排出量 削減	電気 使用量	1 始業前、休憩時の消灯	事務所	営業課長	各担当	年間を通じて継続実施											
		2 エアコンの温度設定(夏28℃/冬23℃)	事務所、食堂	営業課長	各担当	季節ごと設定変更											
		3 離席時のPCスタンバイ設定	PC使用者	営業課長	使用者	年間を通じて継続実施											
		4 フォークリフトのムダな走行、アイドリングを無くす	リフト使用者	入出庫班長	使用者	年間を通じて継続実施											
		5 休み時間の消灯	工場内	各班長	各担当	年間を通じて継続実施											
		6 コンプレッサの昼前OFF		洗浄班長	当番	年間を通じて継続実施											
		7 LED照明の増設	対象範囲拡大(レイアウト変更時)	事業所長	保全班長	随時実施											
		8 破砕機の空回しゼロ化とデマンドの抑制	本数・時間の管理の徹底	入出庫班長	各担当	年間を通じて継続実施											
		9 省電力型扇風機への変更	夏場に実施	洗浄班長	保全班長	←			夏季に実施			←					
	灯油 使用量	1 不使用時のこまめなボイラーOFF	増設リモコンにて	洗浄班長	当番	年間を通じて継続実施											
		2 高圧洗浄機の温度管理	季節温度設定	保全班長	洗浄班長	年間を通じて継続実施											
		3 乾燥室乾燥時間と温度の検証と管理	季節温度・時間設定	保全班長	洗浄班長	年間を通じて継続実施											
		4 ケルヒャーの適正温度の検証	容器ごとの温度	洗浄班長	各担当	←			検証			→			結果反映		
		5 内洗温度の見直し	品質を担保した経済温度の追求	洗浄班長	各担当	年間を通じて継続実施											
その他	1 各工程のマニュアル整備によるムダ取り	変更点の反映	保全班長	各班長	年間を通じて継続実施												
	2 エコドライブ推進(急発進・急加速の抑制、経済速度での走行)	トラック、営業車	各班長	使用者	年間を通じて継続実施												
省資源	水 使用量	1 作業に必要な水使用量の検証	各工程、季節毎	保全班長	洗浄班長	←			検証			→			結果反映		
		2 洗浄水の循環利用を検討(濯ぎ排水の再利用)	予算化とスケジュール化	保全班長	洗浄班長	←			検討			→			設備導入		
		3 高圧洗浄機のフィルター清掃	定期実施	洗浄班長	各担当	年間を通じて継続実施											
製品・サービス活動の拡大		1 取扱い数量増加によるエネルギー単消費量削減	新規開拓、既存増販	事業所長	営業課長	年間を通じて営業促進											
廃棄物の削減		1 紙使用量削減(テータ化、両面コピー、Nアップ等)	各項目の更なる推進	営業課長	各担当	年間を通じて継続実施											
		2 ストレッチフィルム削減のため、ハンド活用の推進	ハンド使用対象を拡大	仕上班長	各担当	年間を通じて継続実施											
		3 NG容器に対する一手間による有価維持	内部洗浄の実施	入出庫班長	洗浄班長	年間を通じて継続実施											
		4 廃液の自社内処理の推進	計画的な運用確立	保全班長	保全担当	年間を通じて継続実施											
化学物質使用量削減		1 メタルクリナーの代替製品の検討	トルエンフリー製品へ移行	事業所長	保全班長	検討後順次導入											
グリーン購入の推進		1 エコマーク商品を優先的に購入する		事業所長	各担当	年間を通じて継続実施											
社内啓蒙	環境推進会議	1 活動目標を決めて具体化、活動進捗管理	年2回	事業所長	保全班長	年間計画により実施											
	社員教育	2 社内勉強会の開催と外部講習会受講	社内2回、外部5回	事業所長	保全班長	年間を通じて継続実施											
	EA21強化週間	3 全社で取組み、通年のエコ活動の助走期間とする。	年1回	事業所長	保全班長	年間計画により実施											
社外啓蒙		1 6S/ホールの実施	隔月	事業所長	保全班長	年間計画により実施											
全般	改善提案	従業員からの作業改善提案提出及び実施(年80件以上)	毎週審査	事業所長	保全班長	年間を通じて継続実施											

VI 2017年度環境目標の実績(袋井事業所)

環境活動の取組結果(期間:2017年9月~2018年8月)

項目		単位	[基準年] 2015年度 実績	2018年度 目標 <基準年比>	2018年度 実績 <目標比>	達成	
CO ₂ 排出量 の削減	CO ₂ 排出削減	kg-CO ₂ /個	0.262 <100%>	0.254 <97.0%>	0.251 <98.8%>	○	
	電力 使用量削減	kwh/個	0.214 <100%>	0.210 <98.1%>	0.217 <103.3%>	△	
	灯油 使用量削減	CC/個	57.1 <100%>	50.9 <89.1%>	58.2 <114.3%>	×	
省資源	排水量削減	L/個	12.2 <100%>	14.0 <114.8%>	11.9 <85.0%>	◎	
製品サービス 活動の 積極展開	リユース本数の増加	本	1,101,261本 <100%>	1,191,920本 <108.2%>	1,209,925本 <101.5%>	○	
廃棄量の削減	混合廃棄物の削減	m ³	19.5 <100%>	40.0 <205.1%>	56.0 <140.0%>	×	
化学物質使用量の削減		—	検討実施 する	検討実施 する	トルエンフリー製品 を一部使用	○	
グリーン購入の推進(ECOマーク商品の優先購入)			可能なものは 全て実施する	可能なものは 全て実施する	可能なものは 全て実施した	○	
環境 貢献	環境推進会議 (含・社員教育)		回/年	2回	2回	2回	○
	6S運動	パトロール	隔月実施	隔月実施	隔月実施	隔月実施 (奇数月)	○
		強化週間	回/年	1回	1回	1回(5月)	○
	EA21活動	スタート時	回	1回	1回	1回	○
		強化週間	回	1回	1回	1回 (10月)	○

※ 二酸化炭素排出量の算出には購入電力の排出係数0.488を使用した。

- ※ 達成 ◎ 目標達成率:10%以上
 ○ 目標達成率:10%未満
 △ 目標未達率:5%未満
 × 目標未達率:5%以上

VI 2017年度環境目標の実績(菊川事業所)

環境活動の取組結果(期間:2017年9月~2018年8月)

項目		単位	[基準年] 2015年度 実績	2018年度 目標 <基準年比>	2018年度 実績 <目標比>	達成	
CO2 排出量 の削減	CO2 排出量削減	kg-CO2/t	279.47 <100%>	271.09 <97.0%>	288.94 <107%>	×	
	電力 使用量削減	kwh/t	553.66 <100%>	537.05 <97%>	572.42 <107%>	×	
	ガソリン 使用量削減	L/t	0.92 <100%>	0.20 <22%>	0.26 <128%>	×	
	LPG 使用量削減	kg/t	2.39 <100%>	2.68 <112%>	3.0 <112%>	×	
省資源	上水 使用量削減	m3/t	9.76 <100%>	9.76 <100%>	8.55 <88%>	◎	
廃棄物の削減	ラベル・汚泥・掃き寄せ 排出量の削減	kg/t	54.3 <100%>	62.31 <115%>	78.37 <126%>	×	
受託廃棄物の 環境配慮	再商品化率の向上	%	84.6 <100%>	85.2 <101%>	86.5 <102%>	◎	
グリーン購入の推進(ECOマーク商品の優先購入)		環境目標の策定が難しいため環境目標の具体値は設定せず、 環境活動計画を策定し、推進します。					
環境 貢献	6S運動	パトロール		毎月実施	隔月	隔月 実施	○
		強化週間 (5月)	回/年	-	1回/年	1回/年 実施	○
	社会貢献	工場見学	通期受入	通期受入	実績あり	○	

※ 二酸化炭素排出量の算出には購入電力の排出係数0.488を使用した。

- ※ 達成 ◎ 目標達成率:10%以上
 ○ 目標達成率:10%未満
 △ 目標未達率:5%未満
 × 目標未達率:5%以上

VI 2017年度環境目標の実績(袋井事業所)

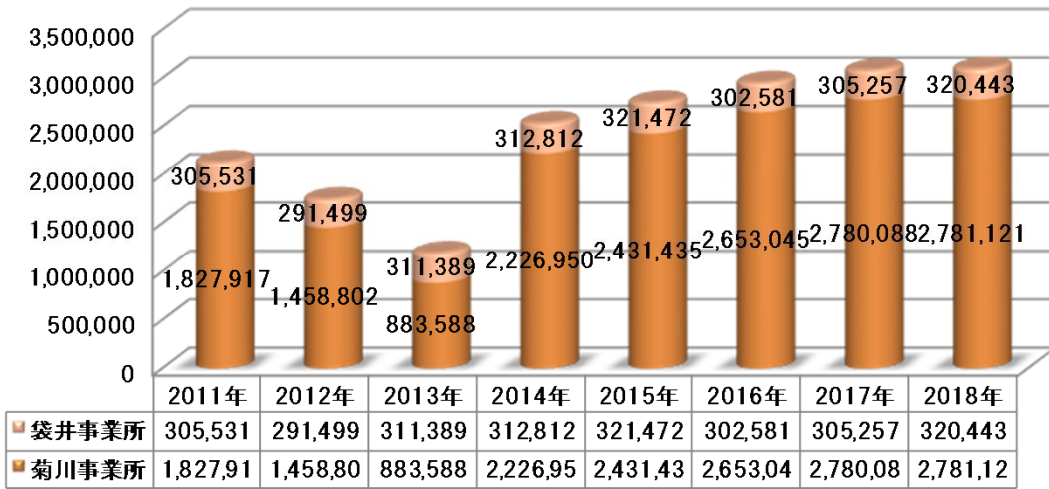
項目	目標・実績	評価
CO2排出量の削減	<u>CO2排出量</u> (kg-CO2/個) 目標:0.254 実績:0.251	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出総数は307,682.1kg-CO2となり、前年比△37,443.9kg(△9.2%)と大幅に減少。主に灯油使用の削減が貢献した。 ・ポリ容器リユース本数は順調に増加し、総取扱い本数も増加したため、単位排出量は前年0.291より大幅に減少した。
電力使用量の削減	<u>電気使用量</u> (kwh/個) 目標:0.210 実績:0.217	<ul style="list-style-type: none"> ・総使用量は前年比5.0%増加したが、総取扱本数も増加。単位あたりの使用量は、計画を上回ったものの、前年同様2.17に抑えることができた。 ・本数増加、設備導入により、後半にかけて使用量は増加した。 ・コンプレッサーの入れ替えでは、インバーター機を採用。
灯油使用量の削減	<u>灯油使用量</u> (CC/個) 目標:50.9 実績:58.2	<ul style="list-style-type: none"> ・総使用量は前年比△17.3%となり、大幅に減少。総取扱本数も増加したため、単位使用量は計画未達だが、前年78.2より大幅な減少となった。 ・洗浄各設備の温度調整を地道に行った。 ・水使用量を管理することにより無駄な加温を徹底排除した。
排水量の削減 (地下水使用量)	<u>排水量</u> (リットル/個) 目標:14.0 実績:11.9	<ul style="list-style-type: none"> ・総排水量は前年比△11.1%となり、大幅に減少。単位使用量も、本数増加により減少となった。 ・無駄な注水カットや、注水操作の平準化、濯ぎ水の再利用など、年間を通じた活動が実を結び、灯油カットにもつながった。
リユース本数	<u>リユース本数</u> (個/年) 目標:1,191,920 実績:1,209,925	<ul style="list-style-type: none"> ・リユース本数は前年比1.5%増と順調に増加し、計画を達成した。
混合廃棄物の削減	<u>排出量</u> (m ³ /年) 目標:40.0 実績:56.0	<ul style="list-style-type: none"> ・取扱い数量増加に伴い、廃棄物の量も増加傾向となった。 ・年間を通して、場内のレイアウト変更を実施したため、片付けによる不要物が大量に出たことも影響した。 ・PPバンドやシートバンド使用により、ストレッチフィルムを削減
化学物質使用量の削減	-	<ul style="list-style-type: none"> ・メタルクリーナーから、トルエンフリーの除去剤であるファインソルブTHへの変更を進めた。
環境貢献	EA21強化週間 1回 6S強化週間 1回 6Sパトロール 6回	<ul style="list-style-type: none"> ・6Sパトロールは継続的に実施。資源の無駄遣い防止や、効率生産の基本である整理整頓を進めた。 ・EA21、6Sの強化実施し、全従業員の意識向上に努めた。

VI 2017年度環境目標の実績(菊川事業所)

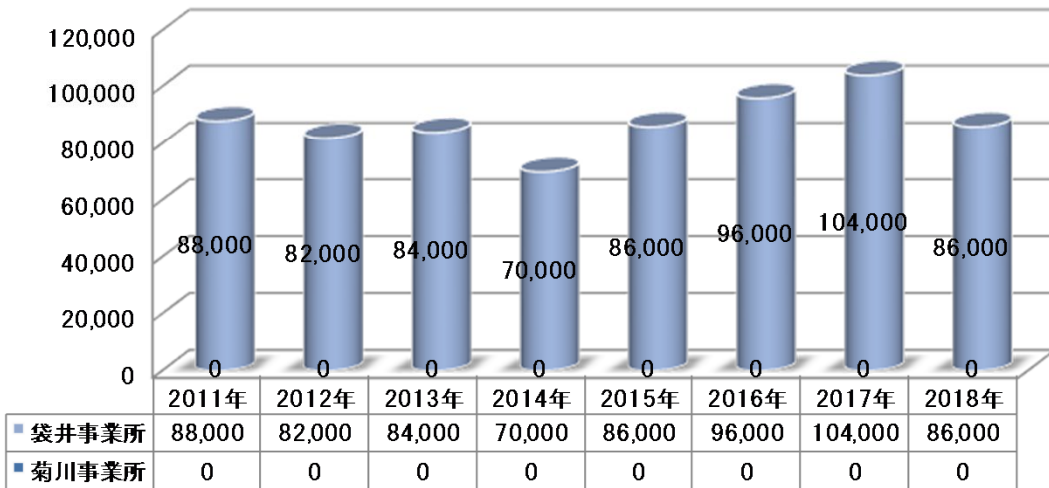
項目	目標・実績	評価
CO2排出量の削減	<u>CO2排出量</u> (kg-CO2/t) 目標:271.09 実績:288.94	CO2排出総数は1,403,826kg-CO2となり、前年比+4,599となった。 需要拡大に応えるべくペレタイザ-2号機の稼働日を増やした。とフォークリフトを1台増車したことにより、電力使用量とLPG使用量が目標を上回ったことが大きく影響し、CO2排出量の計画は達成できなかった。
電力使用量の削減	<u>電気使用量</u> (kwh/t) 目標:537.05 実績:572.42	ペレタイザ-2号機が目標想定よりも+2日/月稼働が長くなったため超過。電気使用量の多いペレタイザ-の稼働が伸びたことで、単位当たりの目標を下回ることが出来なかった。
ガソリン使用量の削減	<u>ガソリン使用量</u> (L/t) 目標:0.20 実績:0.26	営業範囲を拡大したことにより営業車のガソリン使用量が増加した。
LPG使用量の削減	<u>LPG使用量</u> (kg/t) 目標:2.68 実績:3.00	ペレタイザ稼働日増加に伴いLPGを使用するフォークリフト1台増車したことにより増加
上水使用量の削減	<u>上水使用量</u> (m3/t) 目標:9.76 実績:8.55	工程ごとの管理を徹底したことで、目標を達成した。
廃棄物削減	<u>産廃排出量</u> (kg/t) 目標:62.31 実績:78.37	中国産廃輸出禁止により、従来再利用されていたものが、再利用されなくなり、廃棄物となる量が増加したため、目標を大きく上回った。
受託廃棄物の環境配慮	<u>再商品化率</u> (%) 目標:85.2 実績:86.5	材料の調達の見直し、社員教育などの改革が進み高い再商品化率を達成できた。
グリーン購入の推進	<u>事務用品</u> 中心の購入	事務用品においては、意識的に環境負荷の少ない商品の購入が進んだ。
環境貢献	6Sハットロール 6回 6S強化週間 1回 工場見学 1回	昨年に引き続き6S強化週間を実施。整理・整頓について各班で改善テーマを決め、最後までやりきるにより、意識を高めることができた。また敷地外の一斉清掃も実施し、社内意識の向上と周辺環境への配慮を行った。御殿場市の工場見学を実施した。

電力・灯油・水 使用量推移

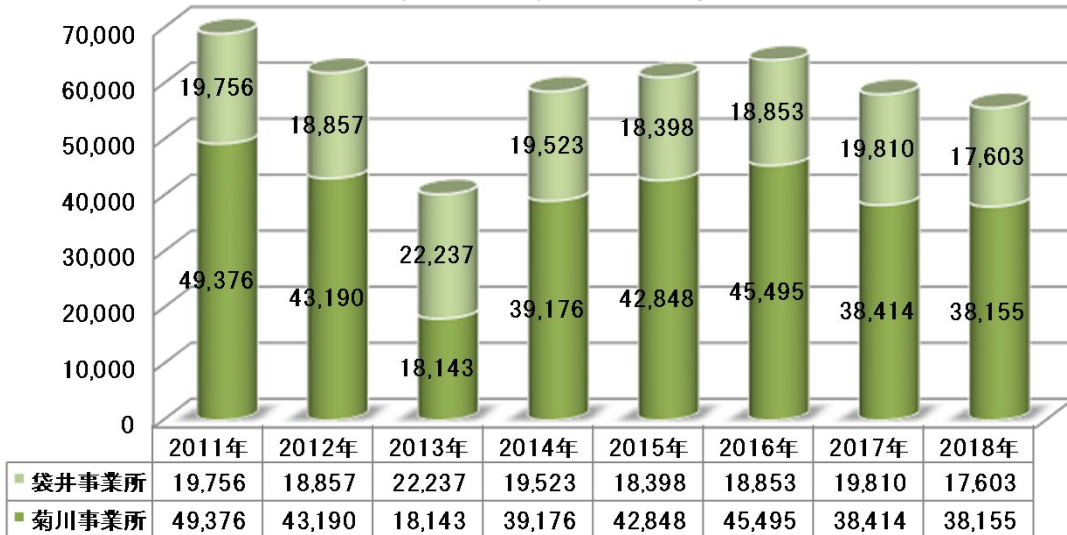
電気使用量(単位:KWH)



灯油使用量(単位:ℓ)



水使用量(単位:ト)



VII 2017年度環境活動の評価(袋井事業所)

達成度：◎80%以上 ○50%以上 △50%以下

項目		取組み目標		責任者	担当者	年間スケジュール(2017/9～2018/8)												評価	
		活動項目	詳細			9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		
CO2排出量削減	電気使用量	1	始業前、休憩時の消灯	事務所	営業課長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	◎
		2	エアコンの温度設定(夏28℃/冬23℃)	事務所、食堂	営業課長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	季節ごと設定変更	→	◎
		3	離席時のPCスタンバイ設定	PC使用者	営業課長	使用者	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	◎
		4	フォークリフトのムダな走行、アイドリングを無くす	リフト使用者	入出庫班長	使用者	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	○
		5	休み時間の消灯	工場内	各班長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	◎
		6	コンプレッサの昼前OFF		洗浄班長	当番	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	◎
		7	LED照明の増設	対象範囲拡大(レイアウト変更時)	事業所長	保全班長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	随時実施	→	◎
		8	破砕機の空回しゼロ化とデマンドの抑制	本数・時間の管理の徹底	入出庫班長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	○
		9	省電力型扇風機への変更	夏場を実施	洗浄班長	保全班長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	夏季に実施	→	○
	灯油使用量	1	不使用時のこまめなボイラーOFF	増設リモコンにて	洗浄班長	当番	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	◎	
		2	高圧洗浄機の温度管理	季節温度設定	保全班長	洗浄班長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	◎	
		3	乾燥室乾燥時間と温度の検証と管理	季節温度・時間設定	保全班長	洗浄班長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	○	
4		ケルヒヤーの適正温度の検証	容器ごとの温度	洗浄班長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	←	検証	→	○		
5		内洗温度の見直し	品質を担保した経済温度の追求	洗浄班長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	○		
その他	1	各工程のマニュアル整備によるムダ取り	変更点の反映	保全班長	各班長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	○		
	2	エコドライブ推進(急発進・急加速の抑制、経済速度での走行)	トラック、営業車	各班長	使用者	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	◎		
省資源	水使用量	1	作業に必要な水使用量の検証	各工程、季節毎	保全班長	洗浄班長	←	←	←	←	←	←	←	←	検証	→	◎		
		2	洗浄水の循環利用を検討(濯ぎ排水の再利用)	予算化とスケジュール化	保全班長	洗浄班長	←	←	←	←	←	←	←	←	検討	→	◎		
		3	高圧洗浄機のフィルター清掃	定期実施	洗浄班長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	◎		
製品・サービス活動の拡大		1	取扱 quantity 増加によるエネルギー単位消費量削減	新規開拓、既存増販	事業所長	営業課長	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて営業促進	→	◎		
廃棄物の削減		1	紙使用量削減(データ化、両面コピー、Nアップ等)	各項目の更なる推進	営業課長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	○		
		2	ストレッチフィルム削減のため、ハンド活用の推進	ハンド使用対象を拡大	仕上班長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	○		
		3	NG容器に対する一手間による有価維持	内部洗浄の実施	入出庫班長	洗浄班長	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	○		
		4	廃液の自社内処理の推進	計画的な運用確立	保全班長	保全担当	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	○		
化学物質使用量削減		1	メタルクリナーの代替製品の検討	トルエンフリー製品へ移行	事業所長	保全班長	←	←	←	←	←	←	←	検討後順次導入	→	○			
グリーン購入の推進		1	エコマーク商品を優先的に購入する		事業所長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	◎			
社内啓蒙	環境推進会議	1	活動目標を決めて具体化、活動進捗管理	年2回	事業所長	保全班長	←	←	←	←	←	←	←	年間計画により実施	→	◎			
	社員教育	2	社内勉強会の開催と外部講習会受講	社内2回、外部5回	事業所長	保全班長	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	○			
	EA21強化週間	3	全社で取組み、通年のエコ活動の助走期間とする。	年1回	事業所長	保全班長	←	←	←	←	←	←	←	年間計画により実施	→	◎			
社外啓蒙		1	6Sパトロールの実施	隔月	事業所長	保全班長	←	←	←	←	←	←	←	年間計画により実施	→	◎			
全般	改善提案		従業員からの作業改善提案提出及び実施(年80件以上)	毎週審査	事業所長	保全班長	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	→	○			

VII 2017年度環境活動の評価(菊川事業所)

達成度 : ◎80%以上 ○50%以上 △50%以下

取組み目標			責任者	担当者	年間スケジュール(2017/9 ~ 2018/8)								評価					
項目	活動項目	詳細			9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月		5月	6月	7月	8月	
CO2排出量削減	電力使用量削減	1 稼働不要設備の停止	工場全体のこまめな電源OFF	各班長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	○	
		2 チラー温度の適正值設置	冬季高温	生産課長	各班長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	季節ごと設定変更	◎
		3 乾燥機温度の適正值設定	夏季低温	各班長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	季節ごと設定変更	◎
		4 エアコン・照明の適正使用	不在時の電源OFF	各班長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	◎
		5 生産工程の綿密な組み立て	ベレタイザー2号機の適性運用	部長	生産課長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	方法検討・検証	△
		6 設備の適正出力	インバーター制御	生産課長	各班長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	△
		7 コピー用紙の節約(含 Nアップ機能)	裏表、Nアップ、使用プリント節約	部長	業務担当	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	◎
		8 LED照明の導入	水銀灯、蛍光灯のLED化	部長	生産課長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	計画的に順次実施	○
	ガソリン・LPG使用量削減	1 アイドリングストップの徹底	フォークリフト	各班長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	◎
		2 急な動作、無駄な動きの排除	フォークリフト	各班長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	◎
		3 製品・材料置場管理による動線短縮	フォークリフト	生産課長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	◎
		4 制限速度の遵守	フォークリフト	各班長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	◎
省資源	上水使用量削減	1 各工程水使用量の安定化	班ごと、時期ごとバラつき防止	生産課長	各班長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	◎	
		2 水の循環比率の向上	目標70%	部長	生産課長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	方法検討・検証実証	◎	
		3 砂濾過装置性能維持	詰り防止、濾過材入れ替え等	部長	生産課長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	時期検討	◎
		4 定期的な配管メンテナンス	ポンプ点検 高圧洗浄	生産課長	各班長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	○
廃棄物の削減	ラベル・汚泥・掃き寄せ排出量削減	1 調達材料の品質向上	ラベル等の削減	部長	生産課長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	入札ごと	○	
		2 水処理設備の性能維持	水処理設備の定期メンテナンス	生産課長	各班長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	時期検討	◎
		3 含有率削減の徹底	汚泥の水切り	各班長	各担当	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	方法検討・実証	◎
受託廃棄物の環境配慮	再商品化率の向上(生産性の向上)	1 材料管理の徹底	処理材料の品質平準化	生産課長	各班長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	◎	
		2 従業員の技能向上	後検査、ヘルメット	生産課長	各班長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	◎
		3 調達材料の品質向上	A:B+C=1:1	部長	生産課長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	容リ協ルート入札時 事業系ルート通年	◎
		4 見える化による意識の向上	グラフ化	部長	生産課長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	◎
		5 安全対応	煩雑になる作業への安全対応	生産課長	各班長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	◎
グリーン購入の推進		1 ECOマーク商品を優先購入する	文房具、備品	部長	業務担当	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間を通じて継続実施	○	
環境貢献	6S運動	1 6Sハットル実施	隔月実施	部長	生産課長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年間計画により実施	◎	
		2 強化週間	年1回	生産課長	各班長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	年1回実施	◎
	社会貢献	3 工場見学の受入	申込みごと	部長	生産課長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	随時実施	◎	
		4 環境教育への貢献	小学生の社会見学の受け入れ検討	部長	生産課長	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	随時実施	△

Ⅶ 2018年度環境活動計画(袋井事業所)

項目	削減対象	目標値	活動項目	詳細	責任者	担当者	期限	
CO ₂ 排出量削減	電気使用量	0.209 kwh/個	1	始業前、休憩時の消灯	事務所	営業業務課長	各担当	通年
			2	エアコンの温度設定(夏28℃/冬23℃)	事務所、食堂	営業業務課長	各担当	各シーズン中
			3	離席時のPCスタンバイ設定	PC使用者	営業業務課長	使用者	通年
			4	フォークリフトのムダな走行、アイドリングを無くす	リフト使用者	入出庫班長	使用者	通年
			5	休み時間の消灯	工場、事務所	各班長	各担当	通年
			6	コンプレッサの昼前OFF		洗浄班長	当番	通年
			7	仕上げルームのエアコン・照明の使用削減	温度管理、休憩時消灯等	仕上班長	当番	通年
			8	破砕品の計画生産による破砕機での使用量削減	本数、時間の計画的運用	生産課長	仕分班長	通年
			9	工場内エリア照明の推進	必要箇所のみ点灯	洗浄・仕上課長	各担当	通年
	灯油使用量	50.9 cc/個	1	不使用時のこまめなボイラーOFF	増設リモコンにて	洗浄班長	当番	通年
			2	再洗発生防止による無駄な作業の抑制	洗浄前の一手間実施	生産課長	洗浄班長	通年
			3	容器ごとの内洗温度管理を確立	容器特性、季節性考慮	洗浄班長	各担当	通年
			4	ケルヒャーの運用方法の確立	温水、水の対象容器判別	洗浄班長	各担当	通年
			5	新ライン生産品の乾燥工程省略を検討	季節ごとテスト実施	生産課長	洗浄・仕上班長	通年
その他		1	洗浄設備の計画運用による効率稼働の推進	新旧ラインの運用	生産課長	洗浄班長	通年	
		2	エコドライブ推進(急発進・急加速の抑制、経済速度での走行)	トラック、営業車	各班長	使用者	通年	
省資源	水使用量	13.9 L/個	1	濯ぎ排水循環利用の継続	内洗機稼働時	洗浄班長	各担当	通年
			2	設備電源の小まめな入り切り徹底	洗浄設備全体	洗浄班長	各担当	通年
			3	高圧洗浄機のフィルター清掃	定期実施	洗浄班長	各担当	通年
製品・サービス活動の拡大			取扱い数量増加によるエネルギー単位消費量削減	新規開拓、既存増販	事業所長	営業業務課長	通年	
廃棄物の削減			1	紙使用量削減(テ-タ化、両面コピ-、Nアップ等)	各項目の更なる推進	営業業務課長	各担当	通年
			2	ストレッチフィルム削減のため、バンド活用の推進	バンド使用対象を拡大	入出庫・仕上班長	各担当	通年
			3	作業用手袋の廃棄量削減	仕様変更検討	仕分け・仕上班長	各担当	通年
			4	廃液の自社内処理の推進	計画的な運用確立	保全課長	保全担当	通年
化学物質使用量削減			1	メタルクリーナーの代替製品使用推進	トルエンフリー製品拡大	事業所長	保全課長	通年
グリーン購入の推進			1	エコマーク商品を優先的に購入する		営業業務課長	各担当	通年
社内啓蒙	環境推進会議	1	活動目標を決めて具体化、活動進捗管理	年2回	事業所長	保全課長	上期、下期	
	社員教育	2	社内勉強会の開催と外部講習会受講	社内2回、外部5回	事業所長	保全課長	通年	
	EA21強化週間	3	全社で取組み、通年のエコ活動の助走期間とする。	年1回	事業所長	保全課長	10/22~11/2	
環境貢献	6S運動	1	6Sパトロールの実施	隔月	事業所長	保全課長	通年	
全般	改善提案	1	従業員からの作業改善提案提出及び実施(年80件以上)	毎週審査	事業所長	保全課長	通年	

Ⅶ 2018年度環境活動計画(菊川事業所)

項目	削減対象	目標値	活動項目		詳細	責任者	担当者	期限
CO2 排出量削減	電力使用量	531.51 (kwh/t)	1	稼働不要設備の停止	工場全体のこまめな電源OFF	各班長	各担当	通年
			2	チラー温度の適正值設置	冬季高温	生産課長	各班長	通年
			3	乾燥機温度の適正值設定	夏季低温	各班長	各担当	通年
			4	エアコン・照明の適正使用	不在時の電源off	各班長	各担当	通年
			5	生産工程の綿密な組み立て	ヘレタイサ-2号機の適正運用	部長	生産課長	通年
			6	設備の適正出力	インバータ制御	生産課長	各班長	通年
			7	コピー用紙の節約(含 Nアップ機能)	裏表、Nアップ、使用プリント節約	部長	業務担当	通年
			8	LED照明の導入	水銀灯、蛍光灯の残りをLED化	部長	生産課長	通年
	LPG 使用量	ガソリン 0.20 (L/t) LPG 2.68 (kg/t)	1	アイドリングストップの徹底	フォークリフト	各班長	各担当	通年
			2	急な動作、無駄な動きの排除	フォークリフト	各班長	各担当	通年
			3	製品・材料置場管理による動線短縮	フォークリフト	生産課長	各担当	通年
			4	制限速度の遵守	フォークリフト	各班長	各担当	通年
省資源	上水使用量	9.76 (m3/t)	1	各工程水使用量の安定化	班ごと、時期ごとハツキ防止	生産課長	各班長	通年
			2	水の循環比率の向上	目標70%	部長	生産課長	通年
			3	砂濾過装置性能維持	詰まり防止、濾過材入れ替え等	部長	生産課長	通年
			4	定期的な配管メンテナンス	ポンプ点検 高圧洗浄	生産課長	各班長	通年
廃棄物の削減	ラベル・汚泥・掃き寄せ排出量	62.31 (kg/t)	1	調達材料の品質向上	ラベル等の削減	部長	生産課長	入札ごと
			2	水処理設備の性能維持	水処理設備の定期メンテナンス	生産課長	各班長	通年
			3	含水率削減の徹底	汚泥の水切り	各班長	各担当	通年
受託環境配慮物の	再商品化率の向上(生産性の向上)	85.2 (%)	1	材料管理の徹底	処理材料の品質平準化	生産課長	各班長	通年
			2	従業員の技能向上	後検査、ヘルメット	生産課長	各班長	通年
			3	調達材料の品質向上	A:B+C=1:1	部長	生産課長	入札ごと
			4	見える化による意識の向上	グラフ化	部長	生産課長	通年
			5	安全対応	煩雑になる作業への安全対応	生産課長	各班長	通年
グリーン購入の推進			1	Ecoマーク商品を優先購入する	文房具、備品	部長	業務担当	通年
環境貢献	6S運動		1	6Sハットロール実施	隔月実施	部長	生産課長	通年
			2	強化週間	年1回	生産課長	各班長	5月
	社会貢献		1	工場見学の受入	申込みごと	部長	生産課長	通年
			2	環境教育への貢献	小学生の社会見学の受入検討	部長	生産課長	通年

VIII 環境関連法規への違反・訴訟の有無(袋井事業所)

1. 環境関連法規等の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を2018年8月31日に確認した結果、違反はありませんでした。

法規・条例・規制	適用内容又は規制基準値	備考	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例 袋井市廃棄物の処理及び清掃に関する条例	保管施設の表示と保管基準の遵守	表示板	○
	収集運搬業者及び処分業者との委託契約、許可更新の確認、現地確認	契約書の締結ほか	○
	処分委託 マニフェストの管理	A票、B2票、D票、E票の管理	○
	マニフェストの写しの保管	5年間	○
	委託契約書の保管	保管ファイルへ	○
	マニフェスト交付等状況の報告	期限内に報告実施	○
	産業廃棄物管理責任者の選任		○
	処分受託 マニフェストの期限内返却	期間内に返却	○
	処分状況の報告	期限内に報告実施	○
	収集運搬業者と排出業者との受託契約	契約書の締結	○
	産業廃棄物処理責任者の設置	保管場所に表示	○
	変更届の期限内提出(10日以内)	代表者変更	○
	処分受託 マニフェストの期限内返却	期間内受託なし	○
	排出業者との受託契約	契約書の締結	○
変更届の期限内提出	代表者変更	○	
水質汚濁防止法 静岡県公害防止条例	適用される排水規準を遵守	袋井市の基準による	○
	浄化槽の排水を測定しその結果を記録する	週1回	○
	排水の第3者機関による定期検査	月1回	○
浄化槽法	保守点検・清掃・水質検査の技術上の基準	点検4回/年	○
消防法	指定可燃物の届出 消防用設備の設置・点検	業者点検(1回/半年) 消防署検査(1回/3年) 消防訓練(1回/年)	○
騒音規制法 振動規制法	特定施設の設置届け出(済)、規制法の遵守	コンプレッサー 但し、破砕機は届出 不要(袋井市)	○
PRTR法	化学物質排出移動量届出制度	年間取扱量要件に 満たない(年間1t以上)	○
フロン排出抑制法	冷凍空調機器:全ての第一種特定機器が対象	企業・法人の管理者による 簡易点検(1回以上/3ヶ月)	○

2. 違反、訴訟等の有無

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟は過去よりありません。

平成30年8月31日
 鈴与エコプロダクツ株式会社
 環境管理責任者 大竹 涼司

VIII 環境関連法規への違反・訴訟の有無(菊川事業所)

1. 環境関連法規等の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を2018年8月31日に確認した結果、違反はありませんでした。

法規・条例・規制	適用内容又は規制基準値	備考	遵守状況	
廃棄物の処理法及び清掃に関する法律 静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	(一般廃棄物)	一般廃棄物処理施設設置許可	許可事業者	○
		一般廃棄物処理業許可	許可事業者	○
		飛散、流出、悪臭、騒音の防止		○
		帳簿の記載、保存	操業管理表	○
	(産業廃棄物)	産業廃棄物管理責任者の選任		○
		産業廃棄物処理委託先への現地確認	現地確認(委託前及び1回/年)	○
		産業廃棄物委託業者との契約	契約書締結、保存	○
		マニフェストの管理	A、B2、D、Eの管理、5年保存	○
		マニフェスト交付等状況の報告	報告書提出	○
		保管基準の遵守		—
	60cm×60cm以上の表示	表示板	○	
	飛散、浸透防止、衛生管理		○	
騒音規制法	特定施設の届出	新設・変更	○	
	規制基準の遵守	基準の遵守	○	
消防法	指定可燃物の届出	新規・変更	○	
	消防設備の設置・点検	消防署検査 1回/3年	○	
水質汚濁防止法	第3条第3項に基づく計画書を旧小笠町(現菊川市)に申請	BODとSSについては毎月外部機関にて検査、それ以外は年1回検査実施	○	
浄化槽法	定期保守点検	点検 4回/年	○	
	定期清掃	清掃 1回/年	○	
	指定検査機関による定期水質検査	検査 1回/年	○	
	設置・変更・廃止届出	随時	○	
容器包装リサイクル法	当該法の定める再生処理業者として関連法規を遵守した容器包装のリサイクルを行う	登録 1回/年 入札 2回/年	○	
毒物及び劇物取締法	苛性ソーダ(25%水溶液)	保管管理	○	
フロン排出抑制法	冷凍空調機器:全ての第一種特定機器が対象 ①自身での「簡易点検(3ヶ月に1回以上)」実施 ②冷凍冷蔵機器(7.5kW以上)1年に1回以上	①企業・法人の管理者が確認 ②有資格者による定期点検実施	○	

2. 違反、訴訟等の有無

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟は過去よりありません。

平成30年8月31日

鈴与エコプロダクツ株式会社
環境管理責任者 齋藤 博俊

IX 環境上の緊急事態への準備及び対応(袋井事業所)

地震等天災によって引き起こされると考えられる環境への緊急事態につき、具体的に以下の2つのケースを想定し一次対応策とする。

想定1. 廃水処理施設の一部崩壊による未処理廃水の外部流出

【対策】

- ① 当社敷地北東部の貯水池にて未処理廃水の流出を確認。
- ② 直ちに水の使用を止める。
- ③ 貯水池出口を備え付けの鉄板で塞ぐ。
- ④ 廃水処理施設修理、未処理廃水の対応を行う。

想定2. 灯油予備タンク(2ヶ所)倒壊による灯油流出

【対策】

- ① 直ちに配管バルブを閉める。
- ② タンクからの流出を止める。(タンクを起こす、流出口を塞ぐ等)
- ③ 漏れた灯油をウエスで拭き取る。
- ④ 残った灯油を備え付けの吸着剤で吸い取る。
- ⑤ タンク修理等の対応を行う。

※予備タンク容量

ボイラ室 : 150L

乾燥バーナ-室 : 190L

IX 環境上の緊急事態への準備及び対応(菊川事業所)

設備故障や、作業ミス、及び地震等天災によって引き起こされる環境へ影響を与える緊急事態に対し、対応のための手順を確立し、維持していく。

1. 定義

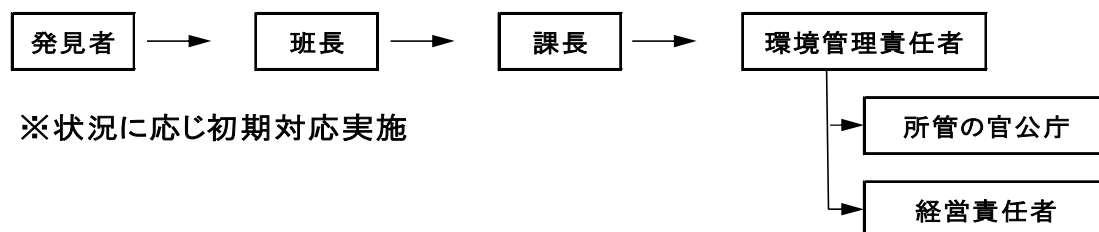
(1) 緊急事態

設備故障や作業ミス及び地震火災等により工場内外に環境影響が発生する恐れのある事態あるいは環境影響が発生した状態

(2) 緊急事態の想定例

大気汚染物質、水質汚濁物質、騒音、振動、悪臭物質などの拡散、漏洩、流出など、また廃ペットボトルの火災

2. 緊急時の連絡体制



3. 緊急時の対応

(1) 薬品(苛性ソーダ流出)想定

- | | |
|----------|--|
| ①流出発見 | 初期対応(バルブ閉塞)、責任者連絡 |
| ②状況確認・指示 | 現地確認(稼働停止、放流口封鎖、吸着材敷設
指示・実行)
PH計測(漏洩箇所、調整池、外部水路) |
| ③関係先への連絡 | 所轄の官公庁、団体、経営責任者に連絡 |
| ④中和作業 | 酸性薬剤による中和作業 |
| ⑤正常確認 | すべての機器、数値、状態に以上がないことを確認 |

【対策】・タンクの転倒防止処置

- ・日常チェックの実施
- ・吸着マット、ゴーグル、ゴム手袋、長靴の準備

(2) 廃ペットボトル火災想定

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| ①火災発見 | 初期対応(消火器による消火、延焼防止処置) |
| ②責任者連絡 | 状況により消防署通報、負傷者、被災状況の確認 |
| ③関係先への連絡 | 所轄の官公庁、団体、経営責任者に連絡 |
| ④状況により消火活動、延焼防止処置、避難を指示、実行 | |

【対策】・置場の整理・整頓

- ・炎センサーの設置
- ・消火器の確認

X 代表者による評価と見通し

経営統合後の新会社として環境活動レポートのリリースは5回目となります。今年度も従業員の活動は、両事業所とも年間活動スケジュールに則り、全員参加で取り組むことができました。

しかし、地道な活動を遂行してもCO₂排出削減目標が、未だ多くの項目で達成できていない結果でありました。今年度の結果を振り返ると、袋井事業所に於いて灯油の削減に大きく貢献する対策を見出すことができました。これは、温水を作る過程での水量調整を個人間格差是正という単純な対策で得られた成果です。地道な活動を通じて諦めず取組めば光明が射す事例として感じるところがあります。菊川事業所に於いてもペレット生産(2次加工品)を増やしたことで電力使用量が伸長しました。評価として記載された内容を分析するとペレット生産に多くの電力が使用されているにも関わらず単に製品数量で原単位が求められており、ペレット生産を増やしては目標から離れていくばかりであり、算定根拠が実態を現わしていないと云わざるを得ません。

以上の事から、全体評価は、「地道な環境活動を続けることは大きな成果に繋がる力であることには変わりない。但し、算出方法など根本的に変えるべきところは変え、経営者含め全員の知恵と工夫であるべき姿を目指そう」であります。そして、次年度も継続すべき点は、細かな進捗管理と社員への周知・共有の徹底と人材育成・情報収集です。それらは、知恵と工夫に不可欠であり、常に進歩する技術を知らなければ新たな取り組みに臨めません。経営者として会社を発展させると共に持続可能な社会に貢献するため、CO₂排出削減に対して弛まない改善活動を継続し。目標達成を第一義と位置付けて名実相伴う環境会社を引き続き目指して参ります。

2018年11月17日

鈴与エコプロダクツ株式会社

代表取締役 鈴木忠彦